

7

腸内細菌検査

1 概要

1] 目的

食中毒発生の未然防止を目的として、赤痢菌、サルモネラ属菌、腸管出血性大腸菌の保菌者検索を行った。

2] 対象

対象者は、食品取扱者、集団生活者（幼児・施設入所者）、学校給食従事者等

3] 検査方法

(1) PCRスクリーニング検査

検体はキャリーブリア輸送培地に採取し、赤痢菌、サルモネラ属菌、腸管出血性大腸菌由来の遺伝子を3菌種同時にスクリーニングする検査法（マルチプレックスPCR法）で検査を行い、疑陽性となった検体に対して培養法を行った。

(2) 赤痢菌検査

- ・分離培養はS S培地を使用した。
- ・確認培養は、T S I 培地・L I M培地・シモンズの酢酸塩クエン酸塩培地・V P 培地を使用し、生化学的性状を確認した。

(3) サルモネラ属菌検査

- ・分離培養はS S培地を使用した。
- ・確認培養は、T S I 培地・L I M培地・クロモアガーサルモネラ培地・シモンズのクエン酸塩培地・V P 培地を使用し、生化学的性状を確認した。
- ・生化学的性状が一致したものはサルモネラ免疫血清を用い、O抗原の同定検査を実施した。

(4) 腸管出血性大腸菌検査

- ・分離培養はクロモアガーS T E C培地を使用した。
- ・確認培養は、T S I 培地・L I M培地・C L I G培地・クロモアガーO157培地・シモンズのクエン酸塩培地・V P 培地を使用した。
- ・生化学的性状が一致したものは、病原大腸菌免疫血清を用いて同定検査を実施した。また、同時にベロ毒素産生能検査を実施した。

2 実施状況

表1 赤痢菌、サルモネラ属菌(チフス菌・パラチフスA菌を含む)検査実施状況

	団体数	受検者数	陽性者数(%)	赤痢菌	サルモネラ属菌群						腸管出血性大腸菌
					O3,10	O4	O7	O8	O9	O16	陽性者数(%)
食品取扱者	1,339	83,421	25 (0.03)	0	2	8	8	3	2	2	0 (0.00)
学校給食従事者	409	43,151	11 (0.03)	0	0	5	2	4	0	0	0 (0.00)
総数	1,748	126,572	36 (0.03)	0	2	13	10	7	2	2	0 (0.00)

【年次推移】

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
赤痢菌・サルモネラ属菌	受検者数	142,596	138,849	129,980	131,465	126,572
腸管出血性大腸菌	受検者数	106,766	105,931	129,980	131,465	126,572